



長坂キャンパスの「過去・現在・未来！」

第1期生として音楽科とともに50年



宇都宮短期大学名誉教授
音楽科第1期生
星野 和夫

私が音楽を本格的に学ぼうとしていた中学3年生のとき(1964年)、前身の須賀高等学校に音楽科ができたことは、誠に幸運でした。校長の須賀友正先生は音楽に造詣が深く、当時、音楽部の活動は活発で、それが音楽科の新設へと結びついたのです。

当初、多数の先生を東京から招聘しており、私も日本を代表する先生方の教えることができたことは大きな喜びでした。オーケストラ活動も盛んで、合宿を繰り返して練習を積み、学生・生徒と教員が一体となって、盛んに県内の学校巡回や近県まで演奏旅行を行いました。

文部省から学園に戻られた須賀淳先生の時代(1968年～)に、高校・短大とも大きく発展しました。校名も現在の宇都宮短大附属高等学校となり、学科・コースが多様化し、電子オルガンや音楽療法士などの専攻コースが短大

に加りました。淳先生は学校運営だけでなく、私も参加した栃木県交響楽団や栃木県オペラ協会の設立にも尽力され、会長として栃木県全体の音楽文化を盛り上げていただきました。

私自身は音楽の視野を広げるために他大学で美学を修め、本学で教職について音楽専門科目を教えることとなりました。ヴァイオリンに限らず、ソルフェージュや音楽専門科目、そして合唱や合奏まで担当できたことは、音楽の教師冥利に尽きると感謝しています。

最後に、これまで半世紀にわたる導きに感謝し、今後とも学園が未来永劫へと発展されんことを切に願っています。



第3期生として草創期の思い出



宇都宮短期大学附属高等学校
講師
音楽科第3期生
根本 英孝

私が宇都宮短期大学に入学した第3期生は、1学年50名のうち男子が6名でした。キャンパスには2学年あわせても100名弱の学生数で上下関係もなく、毎日仲良く過ごしました。入学直後、須賀淳理事長先生が40歳代で、日曜日に私たち学生と一緒にグラウンドに植樹をされたことが、とても印象に残っています。

学生生活ではクラス全員がとても仲良く、2年生の時に初めて短大祭を開催しました。オーケストラも全パートそろえて、1期生の星野和夫先輩の指揮で、映画音楽などを演奏したのも良い思い出です。

年末にオーケストラの定期演奏会を企画して、その練習のために、猪苗代湖畔の「翁島荘」で行われた7泊8日の合宿では、朝から夜まで音楽づけの日々でした。もっとも、休憩時には猪苗代湖でボートに乗ったりして、楽し

い青春時代を過ごしました。こうして、オーケストラの練習に明け暮れていた2年間でした。

卒業後は研究科で学んだ後、附属高校教諭として赴任しました。その後、高校、短大とも大きく様変わりし、学園全体の規模も大きくなり、現在に至っていることは感無量です。現在に至るまで、授業の担当に加えて母校のオーケストラ、吹奏楽、コンクールの指導に携わり、学生・生徒とともに喜びや苦しみを共に味わってきました。

創立当時の思いがみずみずしく受け継がれていることを嬉しく思い、今後ともさらに宇都宮短期大学が発展していくことを心から願っています。



卒業生からのメッセージ



足利市立坂西北小学校教頭
音楽科第16期生
新井 和子

卒業して早や36年。思い起こせば情熱あふれる先生方と個性的な仲間にも恵まれ、充実した素晴らしい日々でした。熱のこもったピアノのレッスン。緊張の連続だった聴音の授業。学生全員で作上げた「宇短大讃歌」の美しいハーモニー。

社会人としての心構えや常識を織り交ぜながらの専門性豊かな講義は、教職に就いてからそのありがたみを実感しました。卒業後は足利市の中学校に音楽教員として赴任し、2013年には、箏と合唱の指導が認められ「とちぎ教育賞」をいただきました。

この春から小学校の教頭として勤務しておりますが、私の教員人生は、宇短大での2年間に支えられています。



音楽科と子ども生活学部の深く豊かな関係



宇都宮共和大学
子ども生活学部特任教授
牧野カヅコ

緑に恵まれた長坂の高台に宇都宮短期大学が創立されたのが1967年4月。戦前、軍都で知られていた宇都宮の街に、音楽芸術の文化を広げるという貴重な役割を果たしてきました。

同じ長坂キャンパスにある宇都宮共和大学子ども生活学部は、2003年に発足した宇短大人間福祉学科の幼児福祉専攻を発展させて、7年前にスタートしました。音楽科のキャッチフレーズ「ゆたかな心は音楽とともに」は、子どもの保育・教育にもピッタリの言葉です。

子ども生活学部のカリキュラムにはピアノの授業がたくさんあって学生たちは、卒業までに幼稚園や保育園で必要なピアノ演奏の技能を身に付けていきます。音符が満足に読めなかった学生が立派に伴奏ができるようになっていく姿は、感動的ださえあります。これも音楽科の先生

方の熱心なご指導のおかげと、感謝に堪えません。

「子育て支援研究センター」が主催する保育者のための研修会では、音楽療法の紹介や実践をいただいています。TINY活動(障がいのある子と家族の遊びのつどい)での音楽遊びやコンサート、親子遊びの会でのお琴に触れる活動等、音楽科の先生方や学生と子ども生活学部の深く豊かな関係は数えきれないほどです。子ども生活学部は音楽教育に強い学部として、その特徴を発揮しています。

今後とも同じキャンパスで協力し合いながら、地元、ゆたかな教育と文化の活動を広めてゆきたいと願っています。



社会と卒業生から頼りにされる福祉人材を



宇都宮短期大学
副学長・教授
中川 英子

宇都宮短期大学に人間福祉学科が新設されたのは、音楽科がスタートしてから35年目の2001年4月。以来17年間、人間福祉学科は、音楽科とともに、宇都宮短期大学の教育研究の両輪を担ってきました。今日では、多くの卒業生が福祉施設の中堅として活躍し、地域の福祉社会を頼もしく支えています。また、教員の研究室には、日ごろ訪れる卒業生の姿が絶えません。

このように人間福祉学科は、実社会に巣立ってから親しみをもって相談できる大学として、また、福祉施設からはリーダーを養成する高等教育機関として、地域からの厚い信頼をいただいています。

一方、本学がもてる教育資源(教育・研究成果や施設・設備)を活用して、「宇都宮短期大学地域福祉開発センター」では講演会や公開講座を開催し、「音楽と福

祉」から地域の文化・福祉の向上に貢献しています。

音楽科と人間福祉学科を有する本学ならではの講座(宇都宮市民大学講座「音楽と福祉」など)で、その真価を発揮しています。

さらに本学は、地域の福祉職や住民の方々ばかりでなく、リカレント教育としても幅広く活用され、卒業生の交流の場ともなっています。

現在、人間福祉学科には、社会福祉士専攻(社会福祉士コース・医療事務コース)と介護福祉専攻がありますが、教職員一同、さらなる地域福祉向上のために、力を合わせて一層の発展を目指してまいります。



昭和音楽大学 声楽専攻4年生
音楽科第48期生
荒川 菜捺

宇都宮短期大学音楽科を卒業後、昭和音楽大学に編入学し、現在は特待生として学んでいます。

宇短大在学中は、様々な演奏会に出演させていただきました。数多くの舞台を通して地域の方々との関係を深められたことで、現在も県内で演奏活動を続けながら、自信を持って学校生活を送る事ができています。また、学友会役員をつとめ、質の高い自主的な学友組織を目指して活動していました。コミュニケーション能力や人をまとめ導く力を身に付けられたので、人間としても成長できたように感じています。

ぜひ後輩の皆さんには、宇短大でしか学べないことをしっかりと身に付けて、活かす事ができるよう、精一杯、がんばって欲しいと思っています。

